

龍郷町

教育委員会名：龍郷町教育委員会

住 所：大島郡龍郷町瀬留 968 番地 1

電 話：0997-69-4533

I モデル地域の現状と取組

1 モデル地域の現状及び安全上の課題

(1) モデル地域の現状

○モデル地域名：龍郷町

○学 校 数：幼稚園 0園 小学校 7校
中学校 3校 高等学校 0校

(2) モデル地域の安全上の課題

離島及び地域の特性上、災害時の避難場所や経路の確保が難しく、頻発する台風や豪雨への防災意識は強いが、地震・津波などの地域・家庭と連携した防災行動について意識の高揚を図る必要がある。また、子どもの主体的な防災行動につながる取組や災害が起きた場合の児童生徒の動き、学校の対応、地域や保護者との連携を図る取組や体制が十分ではない。

2 モデル地域の事業目標

- (1) 全ての学校に中核となる教員を位置付け、学校安全（防災）の取組を推進する。
- (2) 児童生徒自らが考え実践する防災モデル授業の開発や、効果的・実践的な避難訓練の実施、危機管理マニュアルの見直しを町内の小中学校に還元する。
- (3) 地域と連携して取り組む実践的防災活動と避難体制を構築する。

3 取組の概要

(1) 自助・共助・公助の視点をもたせる取組

ア 教師の資質向上

子供の知識・技能を高めるために、防災の専門家の講義を実施した。また、避難場所へ行き、標高の確認や避難方法等の確認も行った。

イ 子供の知識・技能の向上



津波の際の第1避難場所と第2避難場所への行き方や標高の確認を行った。また、大きな地震後や津波の危険がある場合は、基本、車で避難することに決めた。

出前授業やワークショップなど防災の専門家による授業を実施した。

自然災害時に活用できる知識・技能の習得だけではなく、自分の命を守ることは、他の人の命を守ることににもなると教えていただいた。

ウ 家庭・地域との連携

各家庭で避難場所について話し合ってもらった。また、災害について疑問に思ったことは、役場や消防署などにインタビューを行った。

エ 防災に関する教科横断的な教育内容

カリキュラム・マネジメントを行うために、各教科等の指導内容から防災教育に関する内容を分類・整理した。

オ 環境整備

防災バッグは、中身を確認後、各クラス所定の場所に置くようにした。また、防災コーナーの設置、ポスターの掲示を行い、振り返り・確認ができるようにした。



(2) PDCAサイクルを回して追究する学び

ア 引き渡し訓練・避難訓練

引き渡し訓練は、風水害を想定し、年1回ドライブスルー形式で行っている。

避難訓練は、1回目を4月実施に変更し、配車計画や約束・身の守り方等の確認を行った。その後はショートで行い、予告なしや様々な場面で実施した。また、子供たち提案による避難訓練も行った。今後も、子供たちが自分の命を守るための行動を判断しながら取り組める実践を積み上げていく。

イ 避難所体験

子供たちが計画を立て、避難所生活体験を行った。電気・ガスが止まったと仮定して行い、車椅子体験も行った。

ウ 生活科・総合的な学習の時間の取組

低学年は、生活科と関連させながら、戸口集落の危険について調べ、広幅用紙にまとめた。また、学級の時間に危険を回避する方法を自分たちで考えることができた。中・高学年は、総合的な学習の時間に、新単元「自然災害から自分たちの命を守ろう」を設定し、3年以上の縦割り4グループで追究する学びを行った。体験活動や人との関りを重視しながら行い、そこから発生した問いについて考え、解決しながら取り組んだ。

(3) 地域の安全意識の向上

ア 地域の災害の歴史に学ぶ

奄美豪雨の当時の様子について、奄美FMの方に話していただいた。

イ 防災意識の啓発活動

低学年は、校区内の危険箇所についてまとめた物を学習発表会でも掲示し、保護者・地域の方々にも見てもらった。また、紙芝居にまとめたものは、保育園で発表した。

中・高学年は、学習発表会や研究公開で防災について思いや考えを発信した。

ウ 安全教育の取組を評価する・検証するための方法について

- ・モデル校における防災教育カリキュラムの運用及び児童の資質・能力の向上について、アンケート等を実施し考察した。
- ・各校における防災危険箇所マップ等について集約及び相互を行った。
- ・各校における危機管理マニュアルを集約し、マニュアル見直しの視点を共有した。

(2) 組織的取組による安全管理の充実に関する取組

ア 子供・地域・保護者による安全点検

教師・子供は月1回、保護者や地域の方々は、授業参観や学校評議員会の際に安全点検を実施した。子供による安全点検では、校舎や校庭を分担して点検(ABCD判定)を行い、改善が必要なものは対応策などを話し合って付箋に書かせた。自分たちにできることは、実行させ安全な環境づくりに協力してもらっている。また、改善が必要なものとして挙げてきたものは随時



学校が対応するようにした。

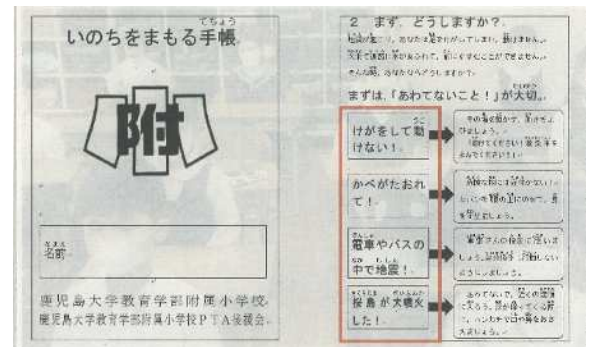
(3) 学校安全の中核となる教員の学校安全推進体制の構築における役割及び中核教員の資質能力の向上に係る取組について

＜鹿児島大学教育学部附属小学校視察＞

日 時：令和6年2月8日

視察先：鹿児島大学教育学部附属小学校

訪問者：龍郷町教育委員会指導主事，龍郷町立戸口小学校長，教職員 計4名



鹿児島大学教育学部附属小では、防災施設、防災カリキュラムの工夫について視察・質疑応答を行った。附属小の防災施設は、学校が災害時の避難施設になることを想定し、各階に備蓄倉庫を設置して非常食や簡易トイレ、飲料水などを備蓄していた。また、「命を守る手帳」を全児童へ配布し、いざという時の避難行動を意識させていた。さらに、3月11日を「防災を考える日」として設定し、朝の活動、非常食による防災給食体験などを行い、「備えることの大切さ」「危険を予測する視点をもつ」ことを学ぶカリキュラムの工夫を行っていた。

＜鹿児島県健康教育研究大会 研究発表＞

日 時：令和6年2月9日

視察先：宮城県岩沼市

訪問者：龍郷町教育委員会指導主事，龍郷町立戸口小学校長，教職員 計4名



県健康教育研究大会では、第 7 分科会「児童生徒の安全確保と安全教育」にて、戸口小のこれまでの実践研究の内容や成果・課題を発表した。地域と連携した児童生徒の安全確保や学校の安全管理の在り方、危険回避能力の育成などを柱に協議を行った。質疑応答も多くなされ、各市町村においても防災教育・安全教育の関心が高まってきていることを感じた。

(4) その他の主な取組について

ア モデル校における防災教育研究推進組織の設定及び研究推進委員会の開催（通年）

戸口小にて防災教育に関する研究推進組織をつくり、月に 1 回推進会議を実施した。

イ 実践委員会の開催（通年）

管理職研修会の中で、防災に関する実践推進委員会を行い、各学校長・教頭を中心にモデル校の取組を紹介していった。また、取組のよさについて各学校の校内研修や学校運営評議委員会などの場でも紹介し、区長、民生委員、保護者など地域の方も参加した。

4 取組の成果と課題

【成果】

- ・ 拠点校においては、児童・職員・保護者・地域が一体となった学校防災カリキュラムを効果的に運用するために、職員研修の充実や保護者等への啓発活動を図るなど防災教育を軸にしたカリキュラム・マネジメントを推進することができた。特に、防災の視点を入れた総合的な学習の時間における探究課題の設定や異年齢による探究活動などを工夫し、児童の資質・能力を高めることができた。

（児童へのアンケート結果）

質 問	R5 1 月	R5 11 月	前年比
1 災害が起こることへの不安	53%	38%	－15%
2 災害時の行動に対する不安	50%	31%	－19%
3 家庭での決まり事（避難方法・連絡手段）	19%	31%	＋12%
4 防災についての興味関心	71%	78%	＋7%

- ・ 学校防災に関するカリキュラムや避難訓練の内容、危機管理マニュアルなどに関して、より組織的・実践的な内容への見直しの視点から実践することができた。

【課題】

- ・ 災害に対する危機感がうすれないようにするために、今後も体系的、計画的な防災教育を展開するためのカリキュラム・マネジメントを推進していく必要がある。その中でも、モデル校として取り組んだ戸口小の成果・課題を共有し、引き続き町内の学校が児童と一緒に保護者・地域の防災意識を喚起できる取組を工夫していく必要がある。
- ・ 「助かる」「助ける」ための学習を行う上で、縦（保育園・中学校）や横（保護者・地域・行政等）の連携の強化が必要である。
- ・ 防災学習において、子供たちの心理的状況（例：防災アラームの音に恐怖感を覚え、動けなくなるなど）に配慮しながら進めていく必要がある。